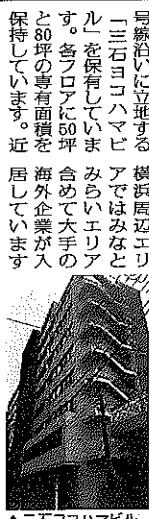


仲介会社の目



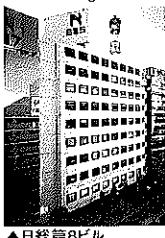
三石ヨコハマビル

上平産業

上平産業
代表取締役
三石 豊次氏

「横浜」駅から徒歩8分ほど、県道13号線沿いに立地する三石ヨコハマピアではみなど、今までにないテナントが入居した点にあります。直近で2件、外資系企業が入居しました。車のパークス。今までは、大企業化があつたと感じるのではなく、中小規模の企業が活躍していくのが印象的です。

極めて参加してきて感じたのは、年々、大きな変化があることです。また、複合的な開発も進んでいます。今後は、バッドタクシーやタクシードライバーなど、運転手の需要が高まることで、人材不足が深刻化する可能性があります。また、地域活性化につながる取り組みが進んでいます。今後は、バッドタクシーやタクシードライバーなど、運転手の需要が高まることで、人材不足が深刻化する可能性があります。

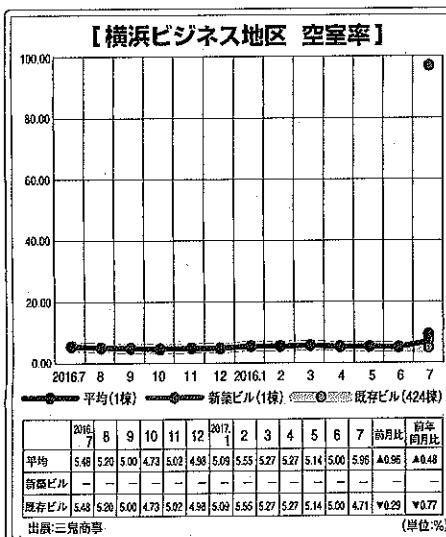


日経第8ビル
埼玉県川口市西区北条2-3-19

日経ビルディング



★ビルオーナーの一言★



貴科相場分析

規模にもよるが1年間でおおよそ坪1000円の上乗せができるという物件もある。しかし、いざ成約となると最終的には昨年とはほぼ同額になる場合が多く、実際の貨物としてはほぼ横ばいといつていいだろう。金額としては中規模ビルも含めた場合だと坪1万2000円～坪1万3000円ほどで推移している。大規模物件でも坪2万円よりも上での成約もある。しかし、比較対象となるライバルエリアと比べると「微増」と言わざるを得ない。大規模再開発が進むみなとみらい方面の大型物件と比較すると見劣りしてしまう。

ただ、ビルのクオリティを維持・継続できるようであれば相場よりも高値で成約できるという事例もある。地元ビルオーナーは「ビルのグレードを高めることで成約料金も上乗せでできています」と話す。テナント側にとって魅力的な条件、立地などを提示できれば期待以上の料金で成約できる見入るエアともいえる。

実際、西口方面では老朽化が進んだ中小ビルが多く、リニューアルを施したりするなどしてクオリティを高めている物があり多い。また、空室率も5%前後となっておりほぼ身動きがとれない状態だ。こういった要素を鑑みて他のビルとの差別化を図り、より魅力を発信していくことができればビルオーナーにとって優位にたてるアワードといえる。

エリアデータ

相鉄・JR直通線とは相鉄本線「西谷」駅からJR東日本東海道貨物線「横浜羽沢」駅付近までの連絡線(約2.7km)を新設した連絡線を利用して相鉄線とJR線が相互直通運転を行なう。また、相鉄・東京直通線はJR東日本東海道貨物線「横浜羽沢」駅付近から東京急行横濱「日吉」駅までの連絡線(約10km)を新設して相鉄線と東急線が相互直通運転する。これらの路線が整備され相互運送が実現されることはに横浜市西部および神奈川県東部と東京都心部が直結し広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化が実現。加えて、「新横浜」駅や現在建設中の「(仮称)新横浜」駅へのアクセス、都心部への所要時間の短縮や乗換回数の減少など鉄道の利便性の向上が期待される。

相鉄・JR直通線の開業予定期は2019年下期、相鉄・東急直通線は2022年下期を予定している。

これらの直通線が開業することにより各沿線の活性化なども期待される一方で、これまで西部方面では「渋谷」駅や「新宿」駅方面に出るためには「横浜」駅で乗換する必要があったがその必要がなくなり、「横浜」駅を介さずに都心部にいけることから「横浜抜き」という現象が起きると予測されている。それに上り今後、「横浜」駅への乗換率が下がる見込みだ。

アリアデータ

相鉄・JR直通線とは相鉄本線「西谷」駅からJR東日本東海道貨物線「横浜羽沢」駅付近までの連絡線（約2.7km）を新設しこの連絡線を利用して相鉄線とJR線が相互直通運転を行うもの。また、相鉄・急行直通線はJR東日本東海道貨物線「横浜羽沢」駅付近から東京東急横線「日吉」駅までの連絡線（約10km）を新設して相鉄線と東急線が相互直通運転する。これらの路線が整備され相互運転が行われることにより横浜市西部および神奈川県東部と東京都心部が直結し広域鉄道ネットワークの形成と機能の高度化が実現。加えて、「新横浜」駅や現在建設中の「(仮称)新綱島」駅へのアクセス、都心部への所要時間の短縮や乗換回数の減少など鉄道の利便性の向上が期待される。

相鉄・JR直通線の開業予定期は2019年下期、相鉄・東急直通線は2022年下期を予定している。

これらの直通線が開業することにより各沿線の活性化なども期待される一方で、これまで西部方面では「渋谷」駅や「新宿」駅方面に出るためには「横浜」駅で乗換する必要があったがその必要がなくなり、「横浜」駅を介さずに都心部にいけることから「横浜抜き」という現象が起きると予測されている。それに上り今後、「横浜」駅への乗換率が下がる見込みだ。



1. 五五七律诗，以韵脚与上句押韵的四字短语为题。

横浜校新築計画」とそれに隣接している「(仮称) 横浜北幸ビル開発計画」は横浜市の「工字画」サイトよこはま22のサイト内に新田間川沿いで行われている規範再開発事業。元々は「横浜商品管理センター」や「NTTデータ」、「タクシーハジキ西ビル」などが構所、共同住宅の延床面積3万2千坪で地階地下1階・店舗5・36坪、敷地面積281・61坪の複合施設である。また、高層階地下1階の階下に、同居する専門店や飲食店などがある。また、高層階地下1階の階下に、同居する専門店や飲食店などがある。

1118

北幸地区で行われる2つの大規模再開発